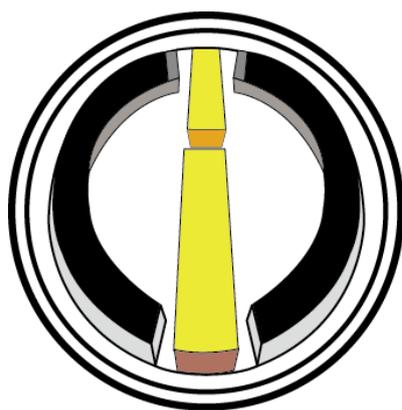


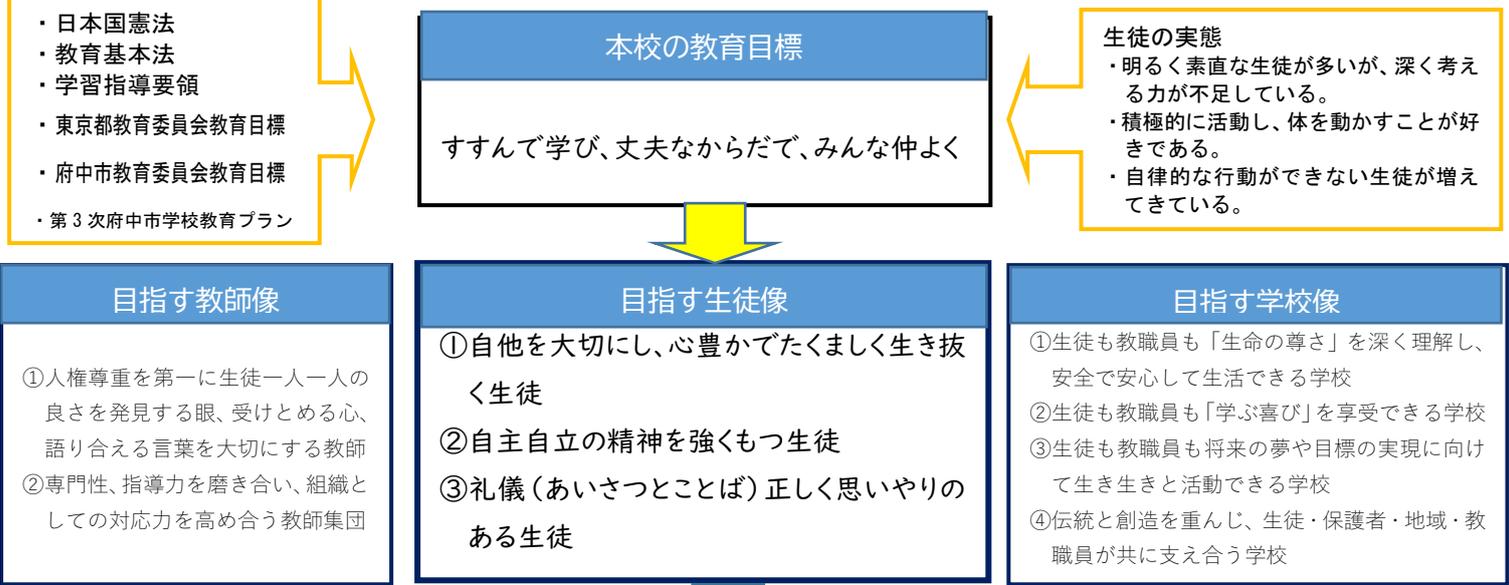
令和4年度

授業改善推進プラン



府中市立府中第八中学校

令和4年度授業改善推進プラン グランドデザイン 府中市立府中第八中学校



研究主題 個別最適な学び・協働的な学びを一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

<p>【体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハ中 2020 レガシーの推進 ・ALPHA新体力テストソフトの導入・活用により体力向上を推進する 	<p>学力向上を図るための基本方針</p> <p>ア 生徒の学ぶ喜びと教師の教える楽しさに溢れた「分かる授業」「楽しい授業」を実践する。</p> <p>イ 数学科・英語科の少人数教育、保健体育科のチーム・ティーチングや授業の工夫・改善を推進し、基礎学力の定着を目指し、反復学習や横断的学習、活動等を重視した授業を推進する。</p> <p>ウ 家庭と連携した家庭学習の充実を推進し、基礎学力の定着を行う。</p>	<p>【ICT活用】</p> <p>society5.0 時代に即したICTを活用した先進的で有効な授業方法に向けた改善を行う。</p>
---	--	---

授業改善に向けた視点と工夫

教育課程編成上の工夫	指導内容・指導方法の工夫	評価・評定の工夫	家庭と地域との連携の工夫	研究・研修の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・第7次府中市総合計画及び第3次府中市学校教育プランを基に、①社会を主体的・創造的によりよく生きる力の育成②学びの機会の保障③子供の学びを支える教育環境を充実させる等様々な施策を教育課程編成に反映させる。 ・数学科、英語科において少人数授業を展開し、きめ細やかな指導の中で個に応じた指導を充実化させる。 ・朝読書の時間を設け、読書週間や読解力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習得、活用、探究を意識して指導を行う。 ・「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」の教科等横断的な育成 ・各教科におけるカリキュラム・マネジメントの推進 ・探究的な学習や体験活動等を通じ、生徒同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう。必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に「シラバス」を配布し、授業内で積極的に活用する。 ・授業アンケートや「児童・生徒の学力向上を図るための調査」「全国学力学習状況調査」を活用し、授業改善に反映させ、学力向上を図る。 ・生徒の学習意欲を引き出すために、ねらいと学習内容、評価の一体化を図る。 ・外部評価、生徒・保護者の評価等を授業改善に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携した家庭学習の充実を推進し、基礎学力の定着を図る。 ・学校ホームページやスマート連絡帳等の活用により、学校だより、学年だより等を通して学校の教育活動を知らせる。 ・情報モラルの徹底や家庭との連携を強化した取り組みを核としてネット社会に適応した人権意識の醸成を図る。 ・食育の充実と家庭との連携を通して、食生活と健康の関連を理解させる。 ・オンラインによる授業配信を行うなど、自宅学習の環境づくりを進め、家庭と連携して生徒が安心して生活できるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究授業や研修を行い、教員の意識を高め、授業力の向上を図る。 ・OJT研修を通して、若手教員の育成に学校全体で取り組む。 ・教員相互の授業観察を行い、評価し合いながら互いの研鑽に励む。 ・小中連携、一貫教育を推進し、教科等の継続性が図れるように研修を深める。 ・外部での研修の成果や情報を校内で共有する。 ・学校全体で意図的につながりを作り出す道徳教育の実践と総合的な学習の時間の見つけ直しを行う。

< 1 年 >

現状と課題	具体的な改善策	学びに向かう力等を育むための方策
<p><強み></p> <ul style="list-style-type: none"> 積極的に発言し、前向きに学習に取り組む生徒が多い。 主体的に発展学習を行う生徒が少なからずいる。 <p><弱み></p> <ul style="list-style-type: none"> 課題に取り組む前から諦めてしまう生徒が一定数いる。 基礎学力が定着していない生徒が各クラスに複数いる。 	<p><どういう力を身に付けさせたいか></p> <ul style="list-style-type: none"> 諦めずに学習に取り組む力。 漢字の読み書きができ、長めの文章を読み解く力。 進んである程度の長さの文章を書く力。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心をもつことができる課題の設定を行う。 授業の展開を小段階に分けて行う。 幅広いレベルの課題の設定を行う。 学習が苦手な生徒への補習を行う。

< 2 年 >

現状と課題	具体的な改善策	学びに向かう力等を育むための方策
<p><強み></p> <ul style="list-style-type: none"> 授業に意欲的に取り組んでいる。 自分の考えを表現の仕方を工夫して伝えようとしている。 文章を書くことに意欲的である。 <p><弱み></p> <ul style="list-style-type: none"> 語彙が少ない。 文章の読み取りの正確性が低い。 課題に対し、筆者の主張や資料を踏まえて作文することが苦手である。 	<p><どういう力を身に付けさせたいか></p> <ul style="list-style-type: none"> 語彙を豊富にし、課題を正確に読み取り、自分の考えを述べることができるようにする。そして、理解したことを自分の言葉で表現できるようにする。 文章の読み取りに特化したテキストを用い、文章に慣れさせる。 物事に対し主体的に考えを深め、具体的に書くことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードを配布し、単元の取組の過程を可視化する。 言葉や表現に着目させ、その効果を吟味させ、評価する活動を行う。 課題を正しく読み取り、自分の考えを相手にわかりやすく伝えるために、課題作文の練習を行う。 漢字テスト、語句の意味調べを行う。

< 3 年 >

現状と課題	具体的な改善策	学びに向かう力等を育むための方策
<p><強み></p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の課題に真面目に取り組む。 話し合い、発表に前向きな人が授業に活気を与えている。 漢字の書きとりの取り組み <p><弱み></p> <ul style="list-style-type: none"> 書き言葉で表現すること 語彙力 	<p><どういう力を身に付けさせたいか></p> <ul style="list-style-type: none"> 主体的に考え、明確に表現できる力、他者と意見を交流し、考えを深められる力を身に付けさせたい。 「書く力」 <p>テーマに沿って根拠（体験）と意見が合致した作文を書けるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートの工夫。 教材の主題や意図に導く授業展開の後、作文を書かせる。作文の手順や型を可視化する。（板書 or ICT） 各自の作文を添削する。模範作文を紹介し、書き直しをさせる。 辞書を常備。毎時意味調べをさせる。パワーポイントを活用し、画像や動画で言葉（物）の意味を学ばせる。

< 1 年 >

現状と課題	具体的な改善策	学びに向かう力等を育むための方策
<p><強み></p> <ul style="list-style-type: none"> 社会科の各領域に対する興味関心が高い。 授業に真面目に取り組む。 <p><弱み></p> <ul style="list-style-type: none"> 47都道府県の位置など、基本的な事項が習得している生徒が少ない。 	<p><どういう力を身に付けさせたいか></p> <p>社会的な事象に関し、自分の考えを自分の言葉で表現、説明できる能力を育むことを目標とする。</p>	<p>学びに向かう力等を育むための方策</p> <ul style="list-style-type: none"> タブレットを生かし、基礎基本を自宅でも確認できるような教材を Google Classroom 経由で用意する。 複数の事項やキーワードを活用し、社会的な事象を説明する能力を育む。 様々な資料を提示し、資料活用能力を高める。 必須の用語に関しては授業終了ごとに確認する。

< 2 年 >

現状と課題	具体的な改善策	学びに向かう力等を育むための方策
<p><強み></p> <ul style="list-style-type: none"> 教科の学習内容だけでなく、世の中で起きている事象などに、興味関心をもっている生徒が多い。 <p><弱み></p> <ul style="list-style-type: none"> 知識を結び付けて社会的事象に対して思考、判断、表現することが不得意な生徒が多い。 知識の覚え方が一問一答形式になっており、社会的事象の全体像をつかめていない生徒が多い。 	<p><どういう力を身に付けさせたいか></p> <p>ある事象に対して、多面的・多角的に考察する力を身に付けさせる。具体的には、知識を正しく理解し、それらが社会的な事象とどのように結びついているのかを考え、自分の言葉で説明できるようにする。</p>	<p>学びに向かう力等を育むための方策</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎、基本的な知識の定着 →小テストを実施する。 思考・判断・表現力の向上 →授業内の学習プリントや単元ごとのまとめプリントを通して、社会的な事象についてまとめる練習を実施する。 授業や定期考査で資料を読み取る機会を増やす。 家庭学習のやり方を指導し、継続して学習に取り組む姿勢、態度を身に付けさせる。

< 3 年 >

現状と課題	具体的な改善策	学びに向かう力等を育むための方策
<p><強み></p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度児童・生徒の学力向上を図るための調査において「どうしてそうなるのか理由を考えながら学習する」生徒の割合が高く、社会的な事象を多面的・多角的に見ることができる生徒が多い。 <p><弱み></p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度全国学力・学習状況調査において、「地域の行事に参加している生徒」が少なく、地域の課題に関心をもっている生徒が少ない。 	<p><どういう力を身に付けさせたいか></p> <p>【社会的な知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会的な事象の意義や特色、相互の関連性まで結びつけられるような理解力の構築。 <p>【社会的な思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会的な事象に対し、自ら課題を見出し、その解決の方法を多面的・多角的に考察して、適切に表現する力。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの住んでいる地域や歴史と自分たちのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする力。 	<p>学びに向かう力等を育むための方策</p> <ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びの視点から学習過程の改善を行う。「深い学び」の中核が「見方・考え方」であることを踏まえ、「見方・考え方」を働かせた学びを実現する授業実践を行い「主体的・対話的で深い学び」につなげる。 <p><歴史的分野></p> <ul style="list-style-type: none"> 社会的な事象を時期、推移などに着目し、ICTの活用により視覚的に歴史的事象の推移が確認できるようにする。 <p><公民的分野></p> <ul style="list-style-type: none"> 情報を収集して読み取る活動や、これに基づいて考察や、判断した結果を表現する活動を行い、議論などを通して互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させるなどを通して思考力、判断力、表現力を育成する。

< 1 年 >

現状と課題	具体的な改善策	学びに向かう力等を育むための方策
<p><強み></p> <ul style="list-style-type: none"> ほとんどの生徒が、真面目に授業に取り組んでいる。 <p><弱み></p> <ul style="list-style-type: none"> 授業での理解に頼り、家庭での学習が身に付いていない生徒が多い。定着度合にも差が生じている。 板書した内容が丁寧に書きとれない生徒がいる。 	<p><どういう力を身に付けさせたいか></p> <p>① 基礎的な計算力 日々の授業の中での反復練習や、家庭学習や小テストで身に付ける。問題集などは、答えだけでなく解き方なども書かせる。</p> <p>② 思考・判断・表現力を高める 基礎的な技能を身に着けた上で、教師からの指導ではなく、自らが考え答えを導く体験を増やす。また、話し合い活動などを通じて、多くの考えを吸収させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小テストや課題に取り組ませることで、学習習慣を身に付けさせる。そして、粘り強く考える力を養う。 授業ごとに、めあてとふりかえりを記入させ、理解したものを明確にする。また、単元の終わりにレポートや小テストを実施し、理解の定着を図る。 ICT機器を取り入れた授業を積極的にを行い、生徒の興味関心を引き出す。

< 2 年 >

現状と課題	具体的な改善策	学びに向かう力等を育むための方策
<p><強み></p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算力は概ね身に付いている。 <p><弱み></p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の定着や継続的な学習の取り組みが課題である。 	<p><どういう力を身に付けさせたいか></p> <p><基礎的な計算力></p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭学習課題を計画的に取り組みせ、授業の始めに取り組み内容を確認する。 定期テスト後も小テストなどで既習事項を振り返り、定着させる。 <p><既習事項を利用して問題を解決する力></p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の中で、話し合い活動を取り入れて、多様な考えを学んだり、より良く問題を解決したりしようとする場面を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業ごとに、めあてと振り返りを記入し、身に付けたものや自分の課題を明確にする。 定期考査のやり直しレポートを出し、表現する機会を設けることで、生徒の主体的に学習に取り組む態度を育成する。 興味をもったことに対して調べ学習を行い、理解を深める。

< 3 年 >

現状と課題	具体的な改善策	学びに向かう力等を育むための方策
<p><強み></p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期末考査において、知識・技能の観点の学年平均到達度が69.89%と高い。 <p><弱み></p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期末考査において思考・判断・表現の観点の学年平均到達度が43.94%と低い。 	<p><どういう力を身に付けさせたいか></p> <ul style="list-style-type: none"> 思考力、判断力、表現力等 学年の領域や単元の領域を横断する学習内容を統合的・発展的に考える学習活動を取り入れる。 学びに向かう力、人間性等 知識及び技能、思考力、判断力、表現力等の基盤であるという認識の上で、学習調整力、粘り強さを向上させる取り組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習調整力 定期考査や単元小テスト、まとめレポートを実施する際、期日と範囲を明確に伝え、生徒自身で学習計画を立て取り組むことができるよう働きかける。 粘り強さ ICT機器等を活用するなどして、生徒の理解度やつまずきを把握し、生徒一人一人に適した個人内評価を実施する。

< 1 年 >

現状と課題	具体的な改善策	学びに向かう力等を育むための方策
<p><強み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に授業に参加している生徒が多く、発言や話し合い活動が活発である。板書以外をメモする生徒も多い。 <p><弱み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎、基本を定着していない生徒もいる。 ・計算問題に苦手意識をもっている生徒が多い。 	<p><どういう力を身に付けさせたいか></p> <ul style="list-style-type: none"> ◇「知識・技能」 ・基礎・基本の知識を身に付け、科学的に探究する力を養う。 ・観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ◇「科学的な思考・表現」 ・観察、実験データの読み取り方を理解し、論理的な考察を養う。 ・学習内容と日常生活のつながりを考え、表現する力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇授業の工夫 ・単元や項目ごとに「まとめレポート」を作成させ、生徒同士で見せ合うことを繰り返すことによって、より良いレポートを書くための創意工夫や試行錯誤を、生徒が主体的に行うようにさせる。 ◇ICTの活用 ・学習活動の共有化を図る。 ・授業の可視化を図る。

< 2 年 >

現状と課題	具体的な改善策	学びに向かう力等を育むための方策
<p><強み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が授業に対して集中して取り組み、実験にも積極的に参加している。 ・授業中の教師の説明や各自大切だと思うことをメモする生徒が多くいる。 <p><弱み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学的な思考はできるが表現を苦手とする生徒が多い。 ・基礎・基本の定着していない生徒もいる。 	<p><どういう力を身に付けさせたいか></p> <ul style="list-style-type: none"> ◇「知識・技能」 ・基礎・基本の知識を身に付け、科学的に探究する力を養う。 ・観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ◇「科学的な思考・表現」 ・観察・実験データの読み取り方を理解し、論理的な考察を養う。 ・学習してきた内容を、整理して自らの言葉や図で表現して、他人に伝えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇授業の工夫 ・思考したことを表現する内容を多く取り入れる。 ・学習した内容を整理して表現するレポートを単元毎に作成させる。 ・本時のめあてを明確にして学習への見通しを立てさせる。 ・小テストを設定し知識を定着させる。 ◇ICTの活用 ・学習活動の共有化を図る。

< 3 年 >

現状と課題	具体的な改善策	学びに向かう力等を育むための方策
<p><強み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力調査において、「解答を文章で書く問題を最後まで書こうと努力する」生徒が80.5%いる。 <p><弱み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力調査において、学習した内容が「普段の生活の中で活用できないか考える。」「将来、社会に出たときに役立つと思う。」の回答が、全国平均よりも低い。 	<p><どういう力を身に付けさせたいか></p> <ul style="list-style-type: none"> ◇「知識・技能」 ・基礎・基本の知識・技能を身に付けさせるだけでなく、それを日常生活で活用できないか考えさせる場面を増やす。 ◇「科学的な思考・表現」 ・記述することに苦手意識が少ないことを生かして、観察、実験のデータをより論理的に考察し表現する力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇授業の工夫 ・前時の学習内容を踏まえて、本時の学習内容が理解できるように連続性を意識させる。 ・観察・実験では、仮説を立てさせ全体の見通しをもって行わせる。 ・前時の復習的な内容と、本時の学習が理解できるように振り返りを行う。 ◇ICTの活用 ・時間的・空間的な変化の過程を可視化する。 ・他の生徒の意見の共有化を図る。

＜ 1 年 ＞

現状と課題	具体的な改善策	学びに向かう力等を育むための方策
<p>＜強み＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 積極的に発言できる。 授業に真面目に取り組み楽しんで歌唱活動ができる。 <p>＜弱み＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 正しい発声が身に付いていない。 生徒主体のパート練習の際に、自分たちで意見を出し合い練習を進めることが出来ていない。 	<p>＜どういう力を身に付けさせたいか＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 正しい発声を身に付けさせ、歌うことへの抵抗をなくしたい。また男子は変声期を上手に乗り越えることが出来るよう指導する。 表現の工夫点を言語化し具体的に伝えるすべをより一層丁寧に教員が伝えることにより、表現の工夫の言語化に対する力を身に付けさせる。 	<p>学びに向かう力等を育むための方策</p> <ul style="list-style-type: none"> 発声のメカニズムを理解させ、正しい発声を身に付けることに意欲をもたせる。 パート練習で話し合いをさせ、意見を出し合うことで、表現の工夫について発表する機会を作る。 歌曲、合唱等の鑑賞を通して歌唱の素晴らしさを味わわせる。

＜ 2 年 ＞

現状と課題	具体的な改善策	学びに向かう力等を育むための方策
<p>＜強み＞</p> <ul style="list-style-type: none"> まじめに授業に取り組み、積極的である。 素直に学び、楽しんで歌唱活動に励むことができる。 <p>＜弱み＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 鑑賞の解釈や楽譜の読み込みなどを深めていく力が弱い。 	<p>＜どういう力を身に付けさせたいか＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽表現や鑑賞の解釈について発表する機会を増やし、言語能力を高めていきたい。 パートでの話し合いを深めて、工夫する力を付けさせたい。 	<p>学びに向かう力等を育むための方策</p> <ul style="list-style-type: none"> どう表現したいかを明確にしてその方法を実践できる力を育む。 パートでの話し合いや発表を通して楽譜への書き込みを定着させる。 合唱コンクールに向けてクラスで協力して一つのを創り上げる喜びを感じ、達成感を味わえるようにする。

＜ 3 年 ＞

現状と課題	具体的な改善策	学びに向かう力等を育むための方策
<p>＜強み＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 真面目に授業に取り組み、学習意欲が高い。 歌唱活動に楽しみながら熱心に取り組める。 <p>＜弱み＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽曲研究、楽譜の読み込みなどを深める力が弱い。 	<p>＜どういう力を身に付けさせたいか＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽を聴くことや演奏することが生活の中の楽しみになることを理解させ、生涯教育につながることを意識させる。 2学期の最後の合唱コンクールに向けて自分たちの力で協力して曲を創り上げる喜びを感じ、合唱の良さを感じさせる。 	<p>学びに向かう力等を育むための方策</p> <ul style="list-style-type: none"> パート練習を通して表現の工夫をどのようにするのか意見を出し合い、表現を深められる力を育む。 良い音楽に触れる機会を増やして、音楽の良さに気付かせる。

< 1 年 >

現状と課題	具体的な改善策	具体的な改善策
<p><強み></p> <ul style="list-style-type: none"> 内容を理解して、前向きに取り組む生徒が多い。 より良い作品を制作しようとする意欲が高い。 <p><弱み></p> <ul style="list-style-type: none"> 対象を観察して特徴を捉える力が弱い。 経験が乏しいため混色や重色する色が選べない。 	<p><どういう力を身に付けさせたいか></p> <ul style="list-style-type: none"> 対象を写實的に描写する力をさらに伸ばす。 対象を立体で表す力をさらに伸ばす。 レタリングを習得し、効果的に活用する力を身につける。 制作の中で発見することや独自に工夫した表現方法を見つけ出す力をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象を繰り返し観察してスケッチさせる。 立体感を表す方法を習得させる。 参考作品と自己の作品を比べながら、描写力をさらに向上させる。 特徴を立体で表すために必要な方法や用具を考えさせる。 混色カードを参考にして、重色や混色の効果を確認させ、調整して自然な色の再現に取り組ませる。

< 2 年 >

現状と課題	具体的な改善策	具体的な改善策
<p><強み></p> <ul style="list-style-type: none"> 作品制作に、前向きに取り組む生徒が多い。 班で相談しながらより良い作品にしようと励んでいる。 <p><弱み></p> <ul style="list-style-type: none"> 調べて得た知識を作品に反映させるのに難航している。 制作進度に差がある。 	<p><どういう力を身に付けさせたいか></p> <ul style="list-style-type: none"> 題材のもつ意味を理解し、色彩や描画での表現力を一層伸ばす。 デザインがもつ情報伝達能力を把握し、身近なデザインからもそれらを読み取る力を付ける。 班でそれぞれの問題点を解決できるように理解力の向上を図るために作品の制作手順を具体的に掲示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 参考作品等を観察し、自分がデザインのどこに目が行ったかを確認する。 気付いた情報を班で話し合い、客観的な意見を知る。 色や形が与える情報が持つ力を身近な既存のもの（お菓子や飲み物）を紹介しながら知る。 作業をするうえで本日の目標を提示し、進めるべき場所を理解する。

< 3 年 >

現状と課題	具体的な改善策	具体的な改善策
<p><強み></p> <ul style="list-style-type: none"> 作品の制作に、丁寧に取り組む生徒が多い。 自ら補助資料を持って来るなど、前向きな生徒が良い刺激となっている。 <p><弱み></p> <ul style="list-style-type: none"> 制作が時間通りに進められない。 画面内に入り込み、立体感や質感など、探究する視点が足りない。 	<p><どういう力を身に付けさせたいか></p> <ul style="list-style-type: none"> 原画をよく観察し、下描きで忠実に写し取る方法を身に付け、描写力を高める。 下描きを基に、絵具で忠実に色調やタッチを再現する方法を身に付け、再現力を高める。 原画の持っている魅力を十分に感じ取れる鑑賞力を高める。 放課後に補習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 補助線を活用して見比べ、構図とともに形や位置の精度を上げる。 絵を逆さにするなど、違った角度から見比べ、相違に気付かせる。 図と地の両方から形を見比べられるように指導する。 混色カードを活用し、色の再現のための補助にする。 絵の魅力を印象や知識から捉え、言葉や文で言語化する。

< 1 年 >

現状と課題	具体的な改善策	学びに向かう力等を育むための方策
<p><強み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いて意欲的に学習に取り組むことができる。 <p><弱み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識・技能が身につけていない生徒がいる。 ・粘り強く取り組む力が弱い生徒がいる。 	<p><どういう力を身に付けさせたいか></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的、基本的な技能 ・課題に対し、個で解決策を考え、粘り強く取り組む力。 ・自ら進んで意欲的に学習に取り組む力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎、基本を繰り返し学習する場面を設定し、全員の力の定着を目指す。 ・個の能力に応じた課題を設定し、達成感を味わいながら、力を伸ばせるよう工夫する。 ・教材、教具を十分に揃え、生徒が意欲的に取り組める環境づくりを行う。

< 2 年 >

現状と課題	具体的な改善策	学びに向かう力等を育むための方策
<p><強み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的なルールを守り、集中して学習に取り組むことができる。 <p><弱み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識が定着していない生徒がいる。 ・学習内容によって意欲の差がある。 	<p><どういう力を身に付けさせたいか></p> <ul style="list-style-type: none"> ・確かな知識、技能の定着。 ・自ら考え、工夫しながら取り組める判断力や思考力。 ・課題に対し、粘り強く取り組む力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な技能や知識は、繰り返し学習する機会を設けることで、力の定着を目指す。 ・作業に見通しがもてるよう、学習カード等を工夫する。つまづいている原因と解決策が分かるよう資料を活用し、粘り強く取り組む力を育てる。

< 3 年 >

現状と課題	具体的な改善策	学びに向かう力等を育むための方策
<p><強み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの分野に対しても、意欲的に取り組む生徒が多い。 ・基礎的な知識・技能が定着している生徒が多い。 <p><弱み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題に対して、解決策を考える力が弱い。 ・個々の作業進度の差が大きい。 	<p><どういう力を身に付けさせたいか></p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識をもとに、情報を活用し、自ら解決策を考えられる力。 ・知識や技能を実生活に生かせる実践力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考に必要な資料を豊富に提示し、生徒が資料を活用しながら考えられる場面を設定する。 ・実生活で知識や技能を生かせる場面を挙げながら、生徒が具体的にイメージできるよう工夫する。

< 1 年 >

現状と課題	具体的な改善策	学びに向かう力等を育むための方策
<p><強み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題に対して前向きに取り組める生徒が多い。 <p><弱み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・指示された課題には取り組めるが、自ら課題を見つけ主体的に取り組む力に弱さを感じる。 	<p><どういう力を身に付けさせたいか></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの課題に気づき、自分やグループの課題解決に向けて主体的に取り組む力を育てる。 ・あきらめずに課題に継続して取り組む姿勢を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のねらいや種目の特性を理解したうえで、自分やグループの課題について考え、身に付けるための手立てを考えられるよう、学習カードを活用する。 ・ICT 機器を活用し、視覚的にも分かりやすい授業を工夫する。

< 2 年 >

現状と課題	具体的な改善策	学びに向かう力等を育むための方策
<p><強み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことに積極的な生徒が多い。課題に対して前向きに取り組める。 <p><弱み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・指示された課題には取り組めるが、自ら課題を見つけ主体的に取り組むことが難しい。レポート等で考えたこと、感じたことを表現する力が育っていない。 	<p><どういう力を身に付けさせたいか></p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体性、運動、スポーツに積極的に楽しみながら主体的に取り組むことができる。 ・課題を明確にし、自分やグループの目標に向けて取り組む意識を育てる。 ・学習カードやレポートへの記入する機会を設定し表現する力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のねらいや種目の特性を明確に伝える。感じたことや考えたことを言語化できるように、学習カードやレポートを用意する。 ・ICT 機器を活用し視覚的にも分かりやすい授業を設定する。

< 3 年 >

現状と課題	具体的な改善策	学びに向かう力等を育むための方策
<p><強み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・よく話を聞き、丁寧に取り組む姿勢がある。運動は好きで、練習に真剣に取り組める。生徒同士で活発に協力し合える生徒が多い。 <p><弱み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・話や説明はよく聞いているが、実践するまでに時間がかかる。自ら練習方法などを考える力が弱い。 	<p><どういう力を身に付けさせたいか></p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題に対する改善方法を選択し、自ら練習に取り組む力を育む。 ・自己の技術を客観的に分析して、克服に向けて継続的な努力ができる生徒を育成する。 ・学習カードを単元の評価基準ごとに具体的に記入する。グループの習熟度に応じた、練習の工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各授業でめあてを明確にして、考えながら実践する習慣を身に付けさせる。①知識、技能②思考・判断・表現③主体的に学習に取り組む態度の関連性を意識した授業を展開する。 ・ICT を活用し、課題を視覚化しながら生徒の「分かった」を引き出すことのできる授業を工夫する。

< 1 年 >

現状と課題	具体的な改善策	学びに向かう力等を育むための方策
<p><強み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学5年生から教科書で英語を学習していることで、英語で話そうとする意欲がある。 <p><弱み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・語彙を覚えるのに苦労している結果、単語テストや単元テストで結果が出ない生徒が多い。その結果、知識・技能の面で教科が必要となる。 	<p><どういう力を身に付けさせたいか></p> <ul style="list-style-type: none"> ・習得した知識・技能を土台として思考力・判断力・表現力を向上させていきたい。そのために、語彙の強化を図る。毎週20問を行う単語テストにおいて目標を設定し、目標を達成できなかった生徒に関しては事後フォローを徹底していく。 ・思考力・判断力・表現力の向上を図るため、自己表現の場面をより多く行っていく。 	<p>学びに向かう力等を育むための方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単語テストにおいて、目標点を生徒本人が設定していく。英語が苦手な生徒については、達成できる最低限の目標を設定すること（Bの評価となる）で頑張れる自信をつける。 ・英語が得意な生徒については、より高い目標をもたせることで、さらなる能力開発ができるようにする。

< 2 年 >

現状と課題	具体的な改善策	学びに向かう力等を育むための方策
<p><強み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習した英文法を使用する場面を設定し、英作文ができる。 ・1年次から積極的に対話活動を取り入れてきたため、英語を話すという抵抗感は少ない。 <p><弱み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語らしい抑揚やアクセントで話せない生徒も多い。 	<p><どういう力を身に付けさせたいか></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習し、身に付けた知識・技能を用いて思考・判断・表現できる力を身に付けさせたい。各単元で扱った文法を活用する場面を作り、表現力の向上を図る。帯活動等でQ&Aなどの英問英答を行い、ALTの対話テストなども実施する。 ・表現のみに偏りが出ないように、入試を見据えた読解トレーニングも帯活動の中で行っていく。 	<p>学びに向かう力等を育むための方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週各単元で学習した英単語を練習する時間とテストをする時間を設けて学習した成果を味合わせる。 ・学習した文法が実際にどのような場面で使用できるのか、具体的な場面を作って、対話活動に取り組みせる。

< 3 年 >

現状と課題	具体的な改善策	学びに向かう力等を育むための方策
<p><強み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次から教科書の音読を重ね、正しく英語らしい発音をすることができる。 ・ディクテーションやまとまりのある英文の聞き取りができる。 <p><弱み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・長文読解と英作文に苦手意識をもっている生徒が多い。 	<p><どういう力を身に付けさせたいか></p> <ul style="list-style-type: none"> ・限られた時間の中で、まとまりのある文を一定の時間で要点を読み取る力→「読みトレ100」を用いて、短時間で読み取る練習をする。 ・自分の意見や考えを書いたり、話したりする力→教科書のSpeakやWriteのコーナーで、習得した文法を用いながら自己表現する力を付ける。 	<p>学びに向かう力等を育むための方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読を今後も継続する。 ・ペアワークを通して、自分の意見や考えを互いに伝え合う場面を作る。